



令和4年度 町学力検査（小学5年生，中学1・2年生）の結果と今後の展望

愛川町教育委員会

令和4年5月に実施された小学5年生，中学1・2年生対象の町学力検査について，同じ検査を実施した全国の結果等と比較しながら，分析いたしました。

1 町内児童生徒の教科に関する調査結果

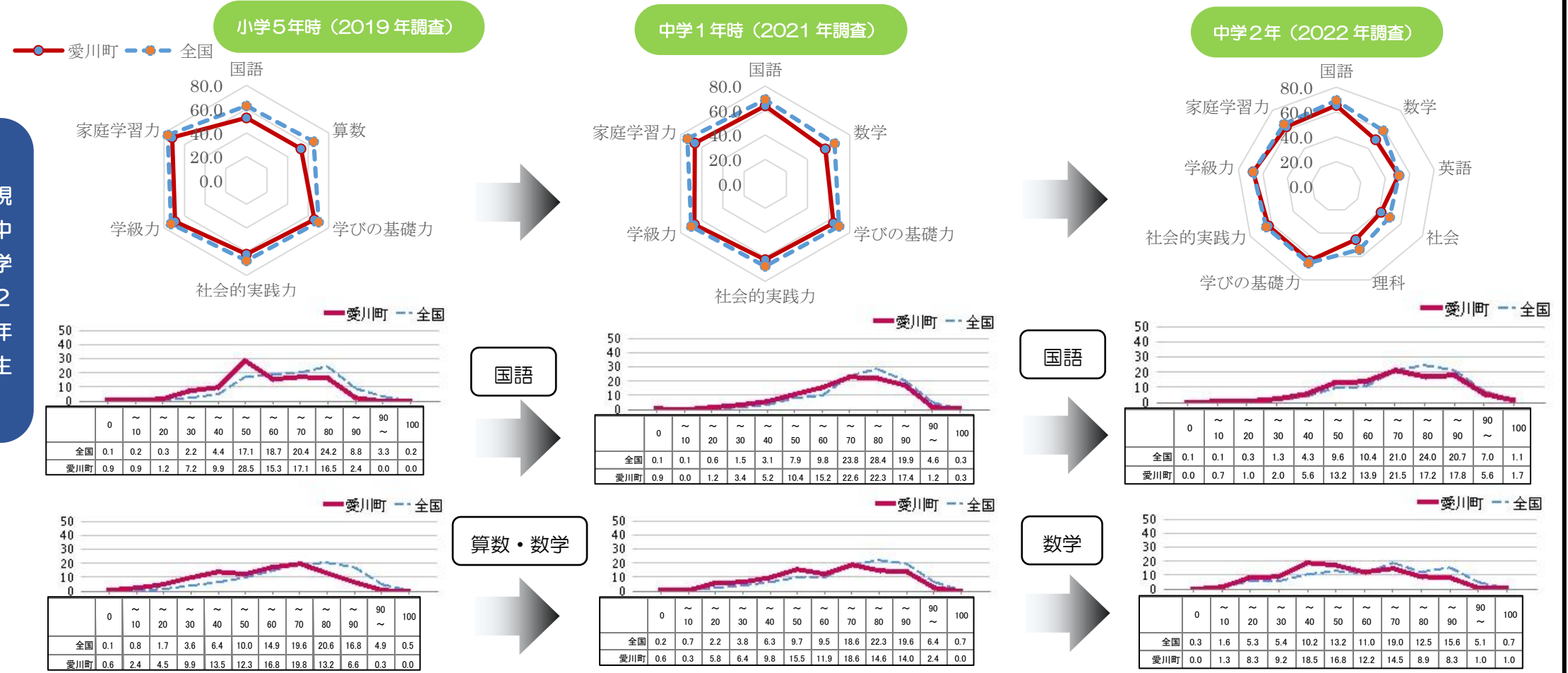
現中学2年生の経年変化を見ますと，国語では，全国の平均値に迫ってきていますが，数学では，中学1年生で縮まってきた差が，再び開いていることが分かります。

また，国語と算数・数学の正答率の分布を比較して見ますと，国語では正答率の低い層が中学校になると引き上げられているのに対して，数学では正答率の低い層は停滞もしくは増加していることが分かります。

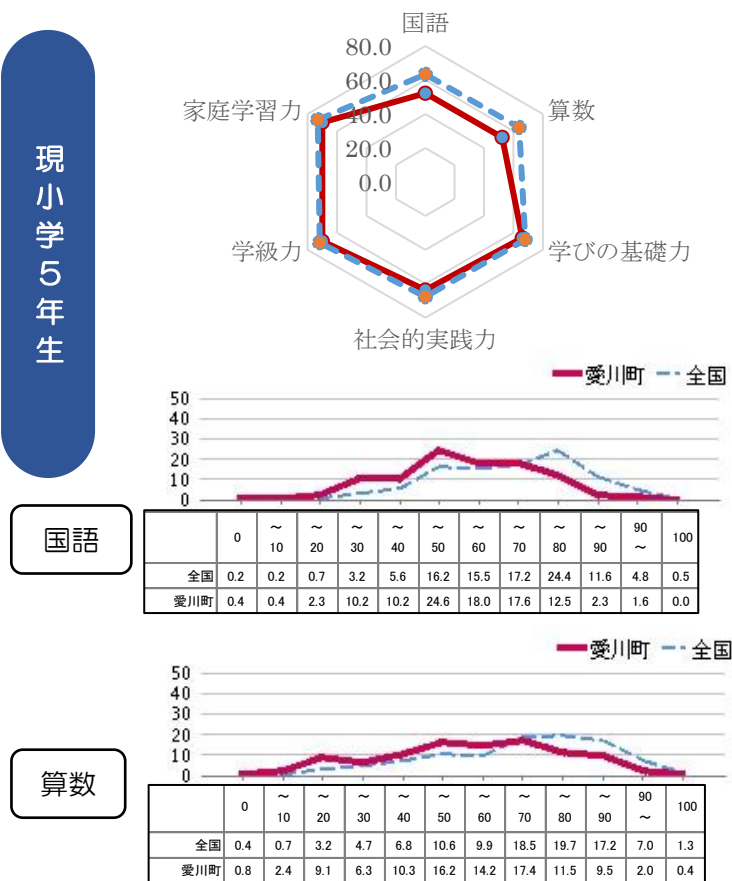
このことは，現小学5年生，現中学1年生の正答率の分布を見ても同じような分布となっていることから，小学校で一定数いる言葉の理解に困難を抱えた児童が，成長に伴い言葉の理解が進むことで，基礎的な力が高まっていく国語科の教科性に対して，小学校時の躓きが，その後の差となって広がっていく算数・数学科の教科性との違いにあるのではないかと考えられます。

そのため，教科の特性と町の児童生徒の実態を踏まえてカリキュラム・デザインを行っていく必要があるでしょう。

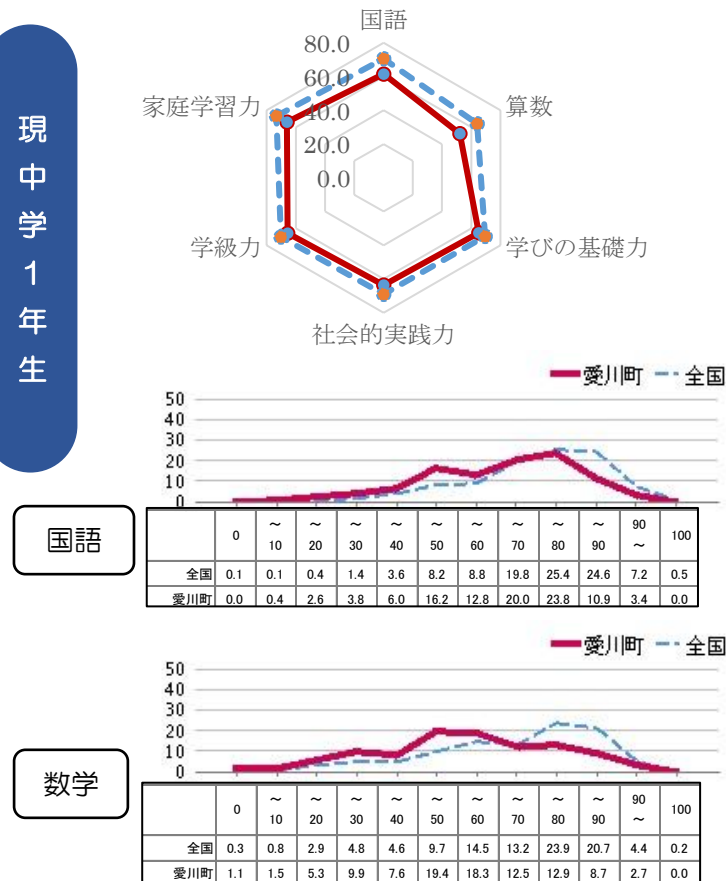
現中学2年生



現小学5年生



現中学1年生



2 町内児童生徒の意識に関する分析結果

【小学5年生】

- 1位：自分で学習の計画を立てている。
- 2位：テレビのニュースや新聞などで，最近の社会のできごとをよく知っている。
- 3位：ゲーム機やケータイ，スマートフォンでゲームをするときは，家の人と時間についてルールを決めている。

【中学2年生】

- 1位：授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく，その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。
- 2位：テストで間違えた問題は，もう一度やり直している。
- 3位：家で学習するときは，苦手な教科もしっかりと学習している。

【中学1年生】

- 1位：本や新聞を読んでいる。
- 2位：調べてわかったことをもとに，考えをまとめることができる。
- 3位：学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている。

これらの表記は，学力層（到達スコアを25%ずつ4つの層に分けたもの）の上位層と下位層との差が，大きい質問から順位付けしたものです。学習したことが身に付いている児童生徒は，見通しをもつとともに振り返り，自己調整を図りながら粘り強く，思慮深く学習に取り組んでいることが伺えます。

3 今後の展望

今年度の学力検査では，「自らの学習を調整する態度」と「粘り強く学習に取り組む態度」を育成すること，各教科等の特性に応じた「見方・考え方」が働く授業づくりをしていくことの重要性を改めて確認する結果となりました。自分で計画（目標）を立て，「見方・考え方」を働かせて学習を行い，その結果を振り返り（評価し），次の学習に反映させる。そのように自分の学習の状況を客観的に捉えることができるよう，すべての学習活動を通じて育成していくという視点に立って，単元（題材）計画を立てていくことが求められます。